

(第1号議案)

令和6年度事業報告
＜令和6年10月1日～令和7年9月末＞

代表幹事 入倉 要

令和6年度の山梨経済同友会は、コロナ禍からの回復期を経て、「再起動」の2年目として活動の新たなステージへと踏み出しました。「シン無尽」を通じた地域活性化、人口減少問題への多角的な取り組み、女性活躍推進、そしてリニア・中部横断道整備効果の検討といった多岐にわたる活動を展開しました。特に、山梨大学をはじめとする**教育機関との連携を強化**し、人材育成や地域課題解決に向けた具体的なプロジェクトを推進したことは、本会の大きな特徴であり、特筆すべき成果です。各種会議やセミナー、意見交換会を通じて、会員間の交流を深めるとともに、県内外の多様なステークホルダーや大学生との連携を強化しました。これらの活動は、山梨県の持続的な発展と、若者がいきいきと暮らせる地域づくりに大きく貢献したと確信しています。

中央日本地区会議「山梨」の開催

令和6年度を象徴する事業として、11月8日に開催した中央日本地区会議「山梨」が挙げられます。地元での事業と重なった金沢経済同友会を除く、中部、新潟、富山、福井、岐阜、静岡各経済同友会から、代表幹事をはじめとする多くの会員にご参加いただきました。

私たちは、参加者に「山梨らしさ」を体感していただくことにこだわり、通常会議に加えて、以下のような独自の企画を実施しました。

- **リニアモーターカーの試乗：** 山梨が誇る最先端の交通インフラを体験していただきました。
- **山梨大学との連携を象徴する会場設定：** 大村智記念学術館で会議を開催し、本会の産学連携の一端をお示しました。
- **山梨ならではのおもてなし：** 懇親会はサドヤワイナリーに場所を移し、山梨県産ワインや日本酒とそれに合う食事を提供しました。
- **学生との交流：** 連携事業で関わっている大学生にも懇親会に参加してもらい、他県の会員に山梨の魅力を直接発信する役割を担っていただきました。

これらの取り組みは、参加された他県の会員から多くの称賛と感謝の言葉をいただくなど、時間をかけて準備してきた努力が実を結びました。本会議を通じて、山梨の魅力だけでなく、山梨経済同友会が取り組む方向性を力強く発信することができたことと確信しています。この会議で得た勢いを、今後の活動のさらなる加速につなげていきたいと考えています。

今後の展望

このように、令和 6 年度は中央日本地区会議の山梨開催を通じて例年とは異なる活発な動きを見せつつも、大学との連携が本格的に始まった記念すべき年となりました。山梨が抱える地域課題解決に向けた大きな一歩を踏み出せたと考えます。

令和 7 年度の新たなスタートにあたっては、これまでの人口減少問題という大きなテーマを中心に据え、各部会がさらに活動を深化させていきます。引き続き大学との連携を一層強化し、具体的な成果につなげていくことで、地域課題解決の動きをさらに加速させてまいります。

以上が、令和 6 年度一年間の活動報告になります。



新たに代表幹事となった中村和彦氏(山梨大学学長)



総会の様子(2024. 10. 24)



第 32 回経済同友会中央日本地区会議(2024. 11. 8)